

司法省指令 / 後見ニ関スルモノ

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/397

司馬省指令

後見ニ関スルモノ

十九年

一四月二十七日

東京府伺ニ對スル指令 親屬

ノ協議ヲ經タル以テハ甲者ハ乙者ノ後見人
トシテ乙者所有ノ地所建物賣讓渡ノ未トナ
リ又丙者ノ後見人トシテ該地所建物ノ買讓
受主トナルヲ得ヘシ

賣買讓渡証文ノ公証ヲ拒絶スルコトヲ得ニ

二

四月二十九日

山形縣

先代戸主タル尊族親

身代限ノ処分ヲ受ケ未タ返償ヲ終ヘサルト
キ隱居シ其跡ヲ相續シタル後戸主幼少ニ付

決裁官

其隱居後見致候義ハ不苦樣認候得共戸主タ

ラサル尊族ニテ身代限リノ處分ヲ受ケ未タ

辨償ヲ終ヘサル中後見致候義モ不苦候ヤ

前奔不苦義ニ候ハ、甲家ノ戸主身代限ノ処

分ヲ受ケ辨償未濟中乙家卑幼ノ後見致候義

モ不苦候ヤ

伺之趣而糸トモ親族協議ニテ撰定スル上ハ

後見為致苦シカラス

三

十月六日

靜岡

追テ法律制定迄後見人ノ名

印ノミヲ以テスルモ又ハ幼戸主連署スルモ

其地方ノ慣習ニ依リ各自ノ適宜ニ任カスト

雖モ幼戸主ノ連署ハ効力ヲ有セサルモノト

ス

後見人ハ部理代人ハ親族協議ヲ為サスニテ
委任スルヲ得總理代人ハ親族協議ノ上タ
リトモ委任スルコトヲ得ス

四 十月八日

兵庫

後見人ノ撰定ハ内外親戚ノ
協議ヲ要ス其協議ニ至ラサルモノハ裁判所
ノ處分ヲ求メシムル儀ト心得ヘシ

五

十一月十九日

山形

後見人撰定ノ儀假令親
族協議ニ名以上ノ連署ヲ以テ届出ツルモ幼
戸主ノ尊族連署ナキモノハ戸長ニ於テ受理
セサルモノト心得ヘシ従前受理シタル届書

決裁部會

ハ却可セシムルニ及ハス尊屬親又ハ親族等
ヨリ不當ノ届ナルヲ申出タルトキハ裁判
所ノ處分ニ任カスヘキモノトス

従前受理シタル届書ハ却下セシムルニ及ハ
サルニ付此ノ如キ後見人カ為シタル調印ハ
有效トシ公証ニ關スル調印タリトモ之ヲ引
直サシムルニ及ハス

止ムヲ得サル事由アリ協議ヲ遂ケ難キ場合
ヲ除クノ外假令親族ハ多数ナルカ又ハ遠隔
ナルモ彼後見人ノ利益ニ關スル親族ハ總テ
協議ヲ要スヘキモノトス親族ノ協議整ハサ
ル場合ハ裁判所ノ處分ニ委スル義ト心得ヘ
シ

父又ハ祖父ハ幼戸主ノ後見人トナルニハ親族ノ協議ヲ要セス母又ハ祖母ニ於テハ親族協議ノ上連署届出サスヘシ

六

十二月一日 愛知 御省御達ニ基キ不動産賣買譲渡貸入書入等ノ證書又ハ願書ニハ親族連署ノ上ニアラサレハ戸長ニ於テ其公證ヲ與ヘサル儀ニ有之候處動産中ト雖モ無記名公債證書(記名公債証書ハ不動産ニ準スル者)又ハ株券等往々巨額ノモノアリ此ヲ後見人ノ一判ヲ以テ取計ヒ得ルハ不可ナルヲ以テ不動産ニ準ジ必ス親族連署ヲ致サセ其旨管内ニ令達シ尚他府縣ヘモ右ノ趣旨告示ノ儀照會致差支無之ヤノ伺ニ對シ左ノ指令ヲ與ヘタリ

伺之趣 追テ法律制定迄徒前ノ通心得ヘシ

立案ノ理由ハ後見人職務権限ニ係ル事項ハ地方官ニ於テ令達告示等ヲ以テ定メ得ヘキモノニ非サルハ勿論動産ニ付後見人ノ取扱ニ制限ヲ立ツルハ立派上ノ問題ナルヲ以テ追テ民法制定迄ハ姑ク従来の通案置方可然ト言フニアリ

七

十二月十四日 愛知縣知事ハ民事局長ヨリ回答後見人ハ幼者ノ代理ヲ為スモノナルヲ以テ

二人並立シテ事務ヲ行ハシムルトキハ處分
權統一セス却テ齟齬扞格ノ患ヲ醸生スルノ
恐アルヲ以テ御聞届難相成儀ト存候

八

十二月二十二日 富山、親族無之乎或ハ有之
モ未丁年者ナルトキハ其所村戸長ヲシテ適
宜後見人ヲ揔定セシメテ可ナリ而シテ幼戸
主所有ノ不動産賣讓渡書質入等ノ場合ニ後
見人ノミ署名セシ證書ニ對シ戸長ニ於テ公
証有與致シテ可ナリ

壬午九

一月廿七日 山口、後見人二名以上ヲ揔定ス
ルハ不相成義ト心得ヘシ

十

二月三日 静岡、後見人ハ其後見ヲ受クル幼
年者ト動産不動産ヲ不問相互ニ賣買ノ契約
ヲ為スヲ得サルモノナリト雖モ既ニ賣渡シ
タル物品ヲ為引戻候儀ハ裁判所ノ處分ヲ仰
カシム可キ儀ト心得ヘシ

土

二月四日 静岡、後見人ト同居ノ子弟親族ニ
限り被後見者ト互ニ賣買讓與不相成義ト心
得ヘシ

十二

五月十二日 滋賀、幼者ニ後見人ヲ附スル義
ニ付テハ追テ法律制定迄従前ノ通

主 七月二十三日 東京 女戸主タル盲人ヲ後見
人ト認メテ可然

西 九月七日 山梨 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ
辨償ヲ竟ヘサル者タリトモ親族協議ニテ撥
定スル上ハ後見人又ハ管財人トナルヲ得
ル事ト心得ヘシ

主 九月九日 福島 幼戸主ノ後見人ヲ撥定セル
ニ當リ親戚貧窮ニシテ相當ノ者モ無之又他
人ハ依頼スルモ承諾無之場合ニ於テハ戸長
ヲシテ適宜後見人ヲ撥定セルルヲ得
伯叔母及ヒ姉ハ後見人トナルヲ得サルモ
ノトス

主 九月廿一日 東京府書記官ハ民事局次長ヨリ回
答

貸附金負債者幼稚ナルヲ以テ本人父後見タ
リニ處此程該後見人癡狂セリ右ハ既ニ其後
見タルノ資格ヲ失シタル者ト看認メ更ニ後
見人撥定セシム可キ儀ト存候ヘ共為念及御
問合トノリニ對シ御見込ノ通ト回答セリ

主 年 主 一月十二日 山梨 平民ニシテ幼少ノ者ヲ戸
主トナシ家族ニ於テ補佐シ一定ノ後見人ヲ

置クヲ欲セサルモノアリ右等ハ必スシモ之
ヲ置カシムルニ及ハサル儀ニ候哉トノ伺ニ
對シテノ指令

伺之趣不得止事故アルモノ、外必ス後見人
ヲ立テシムヘキト心得可シ

八日無 東京(同日附ハ四月廿一日) 戶主 瘋癲病

ニ係リタルニ付其妻ヲ以テ後見人ト定ムル
旨親族連署ノ上届出ノ者有之右ハ他ニ相當
ノモノ無之場合ニ於テハ其届出ヲ受理シ可
然哉
伺之通

法典編纂會

九 五月十六日 東京 身代限ノ處分ヲ受ケ又ハ

身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル
者ト雖モ親族協議ノ上之ヲ後見人ト為サン
コトヲ届出ツルニ於テハ聞届ケ若シカラズ

二十 十二月十一日 千葉縣書記官ヘ民事局長ヨリ回

答

後見人ト同居ノ子弟親族ニ限リ被後見人ト
互ニ賣買讓與質入書入等不相成義ト致思考
候

二十二年壬子

四月四日 愛知 親戚等ハ固辭スル場合ハ戶

長ヲ以テ適宜後見人ヲ擇定セシメ尚其擇定

ニ應スル者無之片ハ更ニ事情ヲ具シ伺出ヘ
シ

三

四月三十日 静岡 戸主 幼少ニ付 同人 寡獨ノ
母ヘ入夫ヲ迎ヘ 後見人ト致度願出候ニ付聞
届可然哉

幼戸主ヘ入夫ヲ迎願ノ件ハ事情止ヲ得サル
モノニ付 聽許苦シカラス

三

五月廿八日 静岡 戸主ノ母ヘ入夫ヲ貰受ケ
度旨願出候 石ハ後見ノ為メ入籍セシムルモ
ノニ付テ事情止ムヲ得サルモノト認メ候間
聽許致可然哉ニ對シ

法典編輯會

入夫願ノ件 聽許苦シカラス

三

同日 静岡 戸主ノ母ヘ後夫ヲ迎ヘ 後見ヲ致
義願出ノ趣キ寡婦ヘ入夫ノ儀 聽許シ苦シカ
ラス

三

六月六日 愛知縣知事ヘ民事局長ヨリ 回答

十五歳以上二十歳以下ノ者ニテ家督ヲ為ス
者ト雖モ親戚ノ評議見込アル者ニ限り當初
ヨリ後見人ヲ設ケサルモノナリ 其事由ヲ戸
長ニ届出サシムヘシ又其他同上ノ幼年者ニ
シテ家督ヲ為シ後見人ヲ届出サルトキハ一
應區戸長ニ於テ事實取組シ必ズ後見人ヲ揔

定届出サレハキ 予御問合ノ趣タテ御意見
ノ通

三六

日無 内務省ヨリ協議六月一日ノ日附ヲ以テ
徳嶋縣知事ヨリ内務司迄西大臣へ伺ニ付主
紐母ヲ後見人ト為ス届ハ其儘受理シ親族中
異議アルモノハ裁判處公ヲ受ケレハシ

三十七

九月二十七日 富山 女戸主幼年ナルヲ以テ
一家族ニアル叔父後見人トナリシモ尙家計
上支支ノ庸アルヲ以テ該叔父(女戸主ノ)ヲ女
戸主ノ相續人ト為シ家名ヲ譲渡ノ儀親戚協
議ヲ以テ出願スルモ許可スヘキ限りニ無之
ヤ
伺之通

三八

十月二十三日 東京府知事へ民事局長ヨリ回答
實父又ハ實祖父ニ於テ後見人トナルハ親
族ノ協議ヲ要セス實母又ハ實祖父母紐父母
ニ於テハ親族ノ協議ヲ要スヘキ義ト致思考
候

三九

二月十七日 京都 生母タル父ノ妾ハ親族協
議ノ上ニアラサレハ後見人タルヲ得サルモ
ノトス
生母ヲ後見人ト為スニ付キ親族協議整ハサ

ルトキハ裁判所ノ處分ヲ受ケシムヘキモノトス

三十

四月十七日 山口 幼者ニ後見人ヲ付スル金致ハ追テ法律制定迄前ノ通

後見人カ幼者ノ為メ不利益ナル事ヲ悟リタルトキハ最初之ヲ撥定セシ父母又ハ親族ニ於テ之ヲ改選スルヲ得若前ノ後見人解任ヲ肯セサルトキハ裁判所ノ處分ヲ仰カシムヘキモノトス

三十一

七月三十一日 岡山 被後見者所有ノ動産不動産ヲ被後見者亡父ノ遺言アリト唱ヘ遺書

法典編會

アリ確實ナルモノト認ムル場合ニ於テ親族協議相整フ上ハ之ヲ後見人ニ賣渡シ譲與スル不若哉ノ件ハ親族ニ於テ遺言ヲ執行スルニ出タルモノハ見込ノ通

三十二

九月十八日 山口 聾啞盲者ト雖モ人事ヲ辨知シ得サルモノノ外ハ後見人ヲ置可カラサルモノト心得ヘシ

三十三

十二月二十七日 東京 後見人カ其後見ヲ為ス幼者ヲ退カシメ若リハ其幼者單身ナル場合ニ於テ幼者ヲ他ノ養子女ト為ス等ノ目的ヲ以テ其家ヲ廢スルカ如キハ假令親族ノ叶

議ヲ以テスルモ不相成義ニ候哉ノ伺ニ著シ
伺ニ通

二十四年
三十四

一月廿七日長崎縣知事へ民事白長日の回答

身作限、處分り更へ来、解債ノ義務ヲ終へ
かんこ、これに幼年ノ身、後見人ト爲んこトヲ湯
へや不存ヤ、件在、御見解、通親族協議ノ上
ト考へ其成るかん一縣ト更考ス

三十五

三月十六日愛知縣知事へ民事白長日の回答

幼年ノ身、母後見ノ件在、親族協議ノ上布
出んこ迄、一可相成美五十ノ義ト思考ス
十月日無東京家徳志、後見、附又ハ一縣ト云認
又(ヤキ)ニ非ス

三十六

三十七

指令月日無同日附、十一月十八日東京府知事

日、内務司法西大臣へ伺

後見人、於て幼年ノ家ヲ廢せん件、付テ云

決裁中

本年十二月廿七日(三十三)付指令、次第モ
有之云、又其幼年ノ家ヲ廢タラ分家ノ
主、これ一家維持相成者メ實家ノ退身セ
レト是モノ又ハ遺囑意見セシテ迄ハ之モノ
「表」ハ幼年其他ノ人主、これ實家ナリ此ハ扶
助ニシテアラス、到底月法ノ目途相立ハカハ爲
メ廢戸ノ上縁組若クハ婚姻セルトハモノ、
ハキハ事情已ムヲ得サハ、付キ特ニ廢戸
ノ係聽許不答我ニ對レ

知事、家ヲ廢ス件、本年十二月九日付指令指
指令、第二〇九六号、通ハ得ヘレ

附、但書、但事情已ムヲ得サハ、限リ親
族協議出願ノ上ハ聽許答シヨラス

十四

人ヲ爲ラシ相成ラカン義ハ心具ヘシ

十月日宮東至、後見人々更改せん之際、親臨
ノ機嫌ヲ以てん以上、之前後見人々飛騨ヲ
賜ハ人々居又ナレ、但前後見人々於此解任
ヲ皆モサントナレ、裁判處方々仰カシム（ニ）

十一月日無大改即入會、母方其初志、後見人
以為人手續、開レ明以十三年協縣内、
對之、内務省指令に親族協議を要スト
レ十八年、豫協縣内、對之日有指令に
協議を要ストレ十九年、山口縣内、對
之日有指令に協議を要ストアリ何レノ
御指令に據り、兩取可然哉、何、對レ

山形縣向、對多千の年土月十の日當省
指令ノ通心得ヘレ(五ニアリ)

但本件、當有主官、付指令人

司
諸
大
匠

別紙金澤地方裁判所換取正上申ノ件ハ
後見人ヨリ權定四結點ニテ方法及具權限等
ヲ規定スル法律ヲモテ依リ權ハ禁裏アンタ
トモ長ノ如ク山地方裁判所換取正上申ノ如
ク各店ニ對シ施メテ所請人盡遍一方トモ長ノ規
定ニテ後見人及後見監督人等ノ關スル如ク
之ヲ施セラルルカ若クハ特別規定スル之ニ區隔
アリトシテ制定アリタルモノト云フ（ノ事）

依之至要之人。後見今權限乃實監督者。

「開る法律ナキハチ種々弊害アルに付キ
既に民法ノ制定ヨリ初シテ其實施ハ迄斷ヒ
ラレナリト多ク他日修訂ノ上實施ノ要ヲ場
合ニ依リ實施セラルヘキ義ニ付テ今日後見
人ノ開る場合ノミ特別法ニシテ制定セラル
ニ及ヌカハレト思ハス

右信電覽覽 (所人ヨリ傳セシカリ書ス)

四十七

五月十日東京 家務中ノ母ヨリ後見人トナ
ス、件ニ認許スヘカラン義ト心得ヘレ

四十八

六月十日東京 後見人ニ於テ彼後見人トナ
ス義子トアリ、件ニ親睦協誼出願ノ上事

情色ナリ、母サハモテ限り認許告シカラス

四十九

九月七日青川 後見人ノ一人ノ後見人ト心得ヘレ

五十

九月十日東京 後見人ニ要セカン初メ至ニ廢家等

ノ件ニ親睦連署出願ヲ要スヘキ義ト心得
ヘレ

五十一

一月十七日長崎縣知事、民法ヲ長ヨリ回答

初メ至ニ後見人ノ一人ハ親戚ニ於テ指定スヘ
キ當然、廢家等ヨリ再三詆觸カハレモ親戚

ニ於テ指定ス可ラセカントキ、村長ヲシテ相
當人トシテ指定ヤシメ可然哉ト、照會ニ付

レ貴見ニ返リ

五十二

二月十六日東京 丁寧ハチノ入る昭徳血病ニ罹リ

事理ヲ鮮明セシムルニ付後見人ノ付セシトモ

ナリ、母師ノ澄明アルトキハ前例ニ準シ
後見ノ承擔レ可然哉ノ旨ニ對シテ返リ

205

四月日無德島後見解席，備出十支之戸（丁）

年遠
と久
目々
心
自然
當
如
後
見
師
出

一、致力
一、懽懽
一、名
一、見
一、做
一、信
一、見
一、澄
一、明

6 所村長より 湖 へ
つん 浪 りと
無 一 義
存 存 夫

得
昔
念
何
々
々
對
何
遇

日意柔都二人字，後見人以吹簫調，一人之

致
メ
シ
ク
シ
御
々
何
、
通
う

親後遊馬
子子孫見
子孫出
子子孫
子子孫

一、讀者乃收據、香南程子、同、公、市、所、村、長、一、於

致
三
里
信
書
9
支
煙
2
1

周
日
盤
木
於
山
依
叙
毋
又
口
如
後
題
一
卜
卷
八
五

1-3
J
ス

三八五

五十五

卦列序

有卷一

大審院判決例

十四年八月廿九日亥

親屬協誼、此正當之位也。後見人の之に答ふ

廿二 辱 親 之 於 櫻 之 其 日 解 之 人 之 偶

後見櫻河、以後五年間其職ヲ行フ一人ノ要

嫌ふべきは怪ふ世に認む證なきは足しり

後是之
力
親
屬
之
謀
之
入
即
其
不
動
磨
之
骨
之
骨

掃
フ
ク
リ
ト
ニ
テ
フ
ノ
ミ
ニ
テ
ハ
来
ル
其
本
分
ヲ
知
キ
タ
ル

ハ
リ
ミ
ク
リ
得
人

十六年三月三日

未丁年志 亥卯ノ兩清シ
綴ハキ中旨ハ其事柄

新斷之而して其動能定全、可爲

認め難き事之より両方より誤

縁入定まり久後見人ナリ時其外若くハ母ハ目
かう之ヲ後見スル所ハハナリ即ち之ヲ為す所
ヲ推し有ス

即ち其意主ノ作價不相當ナリ土地ノ賣買ハ
適法ナリ後見、但し其意取消し求ム
所ハ買主之ヲ拒り得ス

明治三十二年十月三十一日午後

即ち又後見人連印、約定書ハ買相續権ヲ奪
フニ足ラス

後見人若しハ法律上他人ノ臨終即ち、身体財産
ヲ保護スルニ止リ其相續権ヲ失却セシム
ノ趣旨ヨリ得ス

法典編纂會

十五年二月八日午後

本分家ノ關係ハ後見ノ職務ヲ生ス

即ち其意主ハ無誤ナリ

即令其後見人子リ離別スル相續権論中

尚其子リ存スルハ後見権ハ其中心、後見
人ハ其權利ヲ行使スル得ス

十九年十月二十二日

故因後見人、權利義務ノ付下ノ約定法ナリ

權利ハ其種類ニ依リ日々、行使アリ一定

ノ範囲ハモテテシム一ノ買主ノ意ニ就テ別別

セザルハカラス

十九年十月十九日

故後見人ノ關係ナキ買主ノ買主セシ後見

五

四

三

二

二十三年三月三十日

幼者ノ為ニ後見人ノ為ニタル契約ハ有效ナ
リ

幼者カ自ラ為ニタル契約ハ無效ナリ

二十二年五月二十二日

父ハ子ニ對シ自然ノ後見人ナリトセハ道理
ナルヲ以テ父カ後見人ノ信義ヲ以テ子ノ為
メニ取引ニタルハ濫用ニ出タルモノト云フ
ヲ得ス

父ハ後見人トモテ特ニ公然ノ届出ヲ要セス
凡ソ該詔ノ取引ニ關係ニタルモノハ後見人
ナルヤ否其爭ヲ判決セサルモノハ要旨ヲ

法典編纂會

判セサルノ不法アル裁判ナリトス

二十二年十一月六日

後見人ノ所為ハ不平ノ証據ナキ限りハ被後
見人ニ對シ有效ナリトス

後見人ノ所為ヲ非認スルモノハ其無效ナル
立証ヲ為スノ責任アリ

二十三年九月十四日

後見人ノ行為ト雖モ後見人カ無能力ナリト
ノ証明アルトキハ其行為ヲ無效ナリトスル
ヲ得

二十四年十二月十一日

吾國ニ於テ婦女ノ後見人タルコトヲ禁スル
慣習ナシ

十四

二十四年十一月十一日

現時後見人ニ委任セタル者ハ必ス先ツ被後見人ノ財産目録ヲ調査スルニ非サレハ其職務ヲ執行スルコト能ハストノ成規ナキモノトス

十五

二十三年十月二十日

人カ丁年以上ナルトキハ通帝已ニ後見ヲ免レ自己ニ訴訟能力ヲ有スルモノナレハ特ニ後見ヲ要スヘキ正当ノ理由ナキ限りハ假令一家ノ都合ニ依リ親屬協議上且村役場ニ届濟シ後見ヲ付セアルモ之ヲ以テ法律上後見人トシテ之ヲ詔諾セサル輩三者ニ對シ当然其效ヲ及ブヌヲ得ヌ

十六

二十四年十二月八日

後見人ナキ主丁年者ハ必ス丁年者ト同シク権義務ヲ行フエトヲ得ヘキモノト云フヲ得ヌ

十七

二十五年^月二十二日

我國ニ於テハ主丁年者ハ必ス後見人ヲ設ケサルヘカラサル制法マラス

十八

二十五年二月八日

吾國ニ於テ平民ニ後見人ヲ置ク規定ナキヲ以テ裁判官ハ幼智智識ノ程度ト其家ノ事情トヲ審査シテ後見人ヲ設クルノ必要ナレトノ判決ヲ爲シ得ヘシ
父ノ死之後其子幼年ナルトキハ遺跡相續又

ハ後見人選定等ノ場合ニ母ノ承諾ヲ必要トス

二十六年三月七日

公正証書ニヨリ指定セラレタル死後ノ後見人ハ法律上有效ナリトス

二十

二十六年三月十一日

後見人ハ所謂法律上代理人ニシテ其権限ニ付キ未タ法律ノ規定ナキ限リハ幼者ノ為メ
貸借ヲ為スノ權アルモノト見サルヘカラス
後見人カ為セシ貸借ノ果シテ幼者ノ為メニ
必要ナリヤ否ハ幼者ト後見人間ノ關係ニ於
ケル責任如何ヲ判定スルノ憑據タルヘキニ
債主ニ對シテハ幼者ニ必要ナシトノ事實ヲ
以テ對抗スルヲ得マ

二十六年十二月十六日

人ハ丁年ニ達マルトキハ當然能力者ト為リ
從テ自ラ有效ノ權利行為ヲ為シ得ヘキフト
ハ普通ノ規則ナルヲ以テ幼者ノ為メニ設ケ
タル後見ハ其幼者丁年ニ達スルトキハ當然
解除セラルハモノナリトス

三十一

二十六年七月六日

後見人トシテ届出アルモ無効ナリシ後見人
ヨリ被後見人ノ所有地ヲ買取シモ有效ナル
賣買取成ニタルモノニ非サルヲ以テ其買得者
ノ善意ナリシト否トニ關セズ更ニ其買得
者ヨリ善意ヲ以テ轉買シタルモノハ轉買地

ノ追奪ヲ免レヌ

他家ヲ相續シタル子ノ父ハ其子ノ後見人ト
爲リタル時ニ於テ通常ノ後見人ト爲ル權限
上ニ毫異ナシ

被後見人所有ノ不動産ノ如キ貴重ナル財産
人至ニ之ヲ處分スヘキ權利ナキヲ以テ必ズ

親族協議ヲ經サレハカラス之ヲ經スニテ後
見人ノ爲シタル一已ノ賣買ハ當然無効ニ屬
スヘキコトハ裁判上已ニ公認セラレタル例

ニシテ條理上モ亦當サニ然ルヘキ處ナリ

後見届ノ未タ取消ナレサル間ニ其後見届ヲ
信用シ後見人ト爲シタル賣買ト雖モ其後ニ
至リ後見人タル資格ナカリシモノト決定セ

ラレタルトキハ其賣買ノ全然無効ニ屬ス

二十三

二十六年十月十六日

親族會ニ於テ撰定セラレタル後見人ハ其權
利ヲ實行シ且幼者ヲ保護スルニ當リ妨害
ヲ受ケタルトキハ其妨害者ニ對シ妨害ヲ
除去スル爲メ起訴シ得ヘキハ勿論ナリ

二十四

二十六年十月十六日

賣母カ幼者ノ財産管理人タリシ時ニ匿傷ノ
負債ヲ作り爲メニ幼者ヲミテ身代限ヲ爲サ
シメ幼者ノ地所ヲ賣却シ又ハ匿傷ノ債權ヲ
作り他人ニ譲渡シタル等ノ事實アルヨリニ
テ更ニ後見人ヲ撰定セシヲ至當ト認メテ裁
判シタルニ對シ普通ノ親權ヲ論シテ後見人

ノ機定ヲ非議スルコトヲ得ス

二十八年六月十日

尊屬親ト雖モ後見人ノ職務執行ヲ妨礙スル

コトヲ得ズ

二十八年六月十五日

親權ヲ有スル者ハ不當ナル後見人ノ職務實

行ヲ隨意ニ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

一月十八日

後見人ノ付マアル以上ハ被後見人タル未成

年者ノ結ビタル契約ハ無効ナリ

一月二十七日

幼者ノ最近親族ハ幼者ノ財産權上ニ關係ヲ

有セサルモノト雖モ後見人ノ幼者ニ對スル

扶養關係

詐害行為ニ付テハ資格上之ヲ取消ヲ求ムル

訴權ヲ有スルモノトス

三月七日

公正ノ証書ヲ以テ証明セタル後見人ハ法律

上有効認ム可キモノナリ

三十

十月六日

親族會ニ於テ機定サレタル後見人ハ幼者ヲ

保護スルニ當リ妨害ヲ受クルコトアレハ妨

害者ニ對シ妨害ヲ除キスル為メ起訴シ得ル

ハ論ラ俟タズ其資格ニ付キ第ニナケレハ裁

判所ニ於テ職權ヲ以テ之ヲ調査スヘキモノ

ニアラサレハ其資格ニ對シ不服ヲ唱フルコ

トヲ得ズ

三十七年 三十一

九月二十日

未成年者ノ後見ハ未成年者ヲ成年ニ達スル
ト同時ニ終リシ後見人ハ其資格ナク随テ被
後見者ヲ代表スル所ノ訴訟能力ヲ有セサル
コト論ヲ俟タズ

三十二

十二月十九日

父母ハ其子ノ後見人ヲ選定スルノ權アルヲ
以テ母カ其女ノ後見人ヲ選定スルニ當リ親
權ノ協議ヲ經サリコトヲ無效トスルヲ得ズ
而シテ後見人ハ他人ヲミテ平常ノ雜務ヲ代
理セシムルコトヲ得

三十三

大南院判決
事案は、
三十三

二十八 年九月十四日

後見制度ニ關スル法律未ダ實施セラレサル
ニ由リ後見人カ被後見人ノ財産中ノ或ル一
部ヲ管理セム者ト認ムルモ不合法アラス

三十四

二十八 年九月三十日

後見人トキ幼者ニテ主タル祖父ト家族タル
父アリテ共ニ同居スル場合ニハ其父母ヲ以
テ幼者保護ノ自然代理人ト爲スヘキモノニ
シテ主ヲ以テ該代理人ト爲スノ慣例ナキ
モノトス

終